

【様式①】令和5年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立長良中学校
校長名 松中 昭

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育資源を活用し、総合的な学習の時間や教科に効果的に位置付ける。 ・「いじめ対策」として、アンケート等を活用し、保護者や地域の方と連携して指導・支援を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間においては、地域の企業に依頼し、ゲストティーチャーとして積極的に教育活動に参画していただいている。 ・学校評価アンケートにおいて「教職員は、いじめを許さない指導を徹底し、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に努めている。」の設問において肯定的な回答は91%であった。また、いじめの早期発見を目的としたアンケートを実施し、回収当日、3日後、1週間後に学校いじめ防止等対策推進会議を位置付けている。また、日常的にも学校長の指揮のもと即時対応を行い、必要に応じてSCと連携を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・座学以外での経験の場も創設されており、より一層の充実を期待する ・アンケートは勿論、生徒からの声等に対しても学校長を頂点に迅速かつ的確に対応されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間において、来年度のGIFU MIRAI'sをどのように行うかを見越して、講演などをしていただける人材リストを作成、活用していく。 ・いじめほどの学級にも起こりうるものという認識のもと、学校で指導することはもちろん、保護者や地域に向けてもいじめ克服に向けた思いや願いを広げる活動の推進を図る。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題を解決する諸活動への子供の参画を目指した教育計画を作成する。 ・端末を効果的に活用し、学習に主体的に取り組む生徒を育成する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・第一学年において、長良西小学校の児童と共に地域の花壇の整備をする活動を行った。 ・効果的な一人一台端末の在り方を研究の一つの方途として捉え、積極的に活用した。授業支援アプリ「ロイノート」稼働率は岐阜市でも上位である。学校評価アンケートにおいても「お子様は各教科や総合的な学習の時間などの学習を通して、岐阜市より貸与された一人一台端末の使い方を知り、インターネット等による情報収集にかかわる知識や技能を身に付けているように感じられる。」という設問において肯定的な回答は89%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校長・教頭を中心に長良西小学校とのコミュニケーションを多く通して、生徒に加え保護者や地域としても一貫性を感じる機会がある ・端末活用を学校と生徒間のみならず、生徒間での情報共有・意見交換に利用することで多様性を認識・尊重することにも貢献していると感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・「長良川を美しくしよう運動」などの地域貢献活動に積極的に参加するよう、生徒会執行部や第3学年の生徒を中心に全校生徒に働きかけていく。 ・情報主任やICT教育推進教師を中心に、学校全体としてデジタルシティズンシップ教育を推進していく。
あたたかさど働きがいにあふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が小中一貫の考えを念頭に置き、各領域の指導の系統性を共通理解して指導にあたるとともに、自他の生命の尊厳に関わる指導を充実させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を中心に小中の教員が互いの授業を参観したり、研究の方向性を確認したりして、願う子どもの姿の具体を共有し、小中で教科の学び方の交流を図ったりするなど系統性や連続性を大切にした指導に努めた。 ・生徒会が主導となり、小学校のあいさつ運動に参加するなど、あいさつを地域の大切にしたい文化として捉え、連携した活動を行った。 ・自他の生命にかかわる指導について、小中一貫担当教諭を中心として計画的かつ継続的な指導の在り方を模索していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校理念の相互理解という上流の話から、教育の交流などの実務面まで、意識的に交流を図る取組を感じ取ることはできる 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの授業参観を継続しつつ、合同教科部会を開催する等、小中の指導の系統性を大切にした指導の在り方の共通理解を図る場を位置付ける。 ・自他の生命にかかわる指導について、小中一貫担当教諭を中心として計画的かつ継続的な指導の在り方についての計画を令和5年度中に作成する。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しのある業務計画と校務のICT化を図り、教育のDXを推進することで働き方改革を推進する。 ・適切な点検、事務処理を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間連絡を端末のチャット機能を用いて行い、即時に対象となる職員が連絡を受け取れるように仕組みを整えた。また、職員会提案資料、受付文書をペーパーレス化し、印刷及び配布時間を短縮することができた。 ・生徒の最終下校時刻を必ず勤務時間の16:45とし、放課後の会議を時間外に開始することがないようにした。 ・日課を工夫することで、成績や入試に関わる書類の点検時間を勤務時間内に確保し、正確に採点や点検作業を行うことができる環境を整えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙からTeamsへ移行するだけでなく、チャットツールが有効に活用できるように工夫されている(チームとチャットの使い分け、ファイルが事後的にも見つけやすい保存方法等) ・上記のような取組は子供達との時間確保に加え、万が一のときに機動的に動ける体制につながっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月「8」のつく日である「早く家庭に帰る日」への意識づけをより一層高め、働き方改革を推進するとともに、引き続き、適正に事務処理などを行いたい。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習を通して、正しい知識や判断力を身に付け、危機管理能力を高める。 ・多様な非常事態を想定して、小学校と連携し具体的な対応策を検討し、実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会と連携を図り、地域の交通安全協会の協力を得た上で、小中合同全校引き渡し訓練を実施した。保護者を対象とした、学校評価アンケートにおいて「学校は、大雨・地震などの自然災害や校内の事故等に適切に対応している。」という設問において肯定的な回答率は96%であった。 ・令和6年度能登半島地震を受けて、地域に生きる一員としてどんなことができるかといのかを地域の防災士を招き地域の防災の在り方について考える機会を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異常気象や地震を含め自然災害への備えが日に日に高まる中、引き渡し訓練を始めとする訓練や心構えの醸成を意識的かつ定期的に行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業等で様々な災害や犯罪等に対する知識を身に付けることができるよう教育課程を編成する。 ・来年度においても合同引き渡し訓練を実施する。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/nagara-/>